

説明文総合 No.3(点字ブロック)

L1 標準

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の英文を読んで、あとの各問に答えなさい。[注]の語句は本文のあとにまとめてあります。文中の(A)～(D)は、問4で使う「文を入れる場所」の印です。

- ① Have you ever looked down at the yellow blocks on the street or at the station? They are called tenji blocks. There are two kinds: blocks with long lines mean “you can go this way,” and blocks with small dots mean “stop and check.” Most people walk over them without thinking. But for people who cannot see, the blocks are(①)under their feet — they tell them where to go and where to stop.
- ② Tenji blocks were born in Japan. In the 1960s, a man named Seiichi Miyake learned that his friend was losing his sight. Miyake wanted to help him walk through the town safely, so he used his own money and made the first blocks. In 1967, the world’s first tenji blocks were put on a street in Okayama, near a school for children who could not see. **A**
- ③ From that small street, the blocks began to travel. In the 1970s, they appeared in train stations in Japan, and little by little, they spread to the whole country. Today, you can find them in many countries around the world. There is also an international rule about their shape, so the lines and dots are almost the same everywhere. **B**
- ④ However, the blocks cannot do their job alone. If a bicycle is parked on them, they become a wall, not a road. If people stand on them and look at their phones, the way is closed. The blocks can help someone only when the way on them is clear. **C**
- ⑤ Technology is now giving the blocks new power. At some stations, blocks work together with smartphone apps: when the app reads a code on the block, it tells the user the way with voice guidance. **D** The small yellow blocks carry a big idea — a town should be designed for everyone. The next time you see them, you will not walk over them without thinking.

[注] tenji block 点字ブロック / dot 点 / Seiichi Miyake 三宅精一(人名) / Okayama 岡山 / international rule 国際的な決まり / park ～をとめる / voice guidance 音声案内 / design ～を設計する

説明文総合 No.3(点字ブロック) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) 本文の(①)に入る最も適切なものはどれか。 ア a wall イ a game ウ a map エ a bed	()
問2(15点) 下線部 sight(第②段落)の意味として最も適切なものはどれか。 ア 視力 イ 記憶 ウ 会話 エ 仕事	()
問3(15点) 下線部 their job(第④段落)の内容として最も適切なものはどれか。 ア 街にとめられた自転車を整理すること イ 駅の床をきれいに保つこと ウ 電車の時刻を音声で知らせること エ 目の見えない人に、進む場所と止まる場所を足もとで伝えること	()
問4(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。 Thanks to this rule, people who cannot see can use the blocks in the same way in a foreign country.(この決まりのおかげで、目の見えない人は外国でも同じようにブロックを使える。) ア (A) イ (B) ウ (C) エ (D)	()
問5(20点) 本文の内容と合っているものはどれか。 ア 点字ブロックは日本で生まれ、1967年に岡山の街に世界で初めて設置された。 イ 点字ブロックはアメリカで発明され、日本に輸入された。 ウ 長い線のブロックは「止まって確かめる」という意味を表す。 エ 点字ブロックの上に自転車をとめると、罰金を払わなければならない。	()
問6(20点) この文章のタイトルとして最も適切なものはどれか。 ア The History of Okayama イ How to Ride a Bicycle Safely ウ A Map Under Your Feet エ Smartphone Apps in Japan	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
ウ	ア	エ	イ	ア	ウ	/100

問1 正解 ウ(15点) | 空所補充は「直後の言いかえ」を探す

根拠 空所の直後にダッシュ(―)があり、they tell them where to go and where to stop(どこへ進み、どこで止まるかを教えてくれる)と説明が続く。「行き先を教えてくれるもの」=a map(地図)。足の下にある地図、という比喻。

誤答の切り方

ア	a wall(壁)は「進めなくするもの」。第④段落で「自転車が置かれると壁になる」と、悪い状態を表す言葉として使われている――真逆。
イ	a game(ゲーム)――遊びの話は本文のどこにもない。
ウ	a map(地図)=直後の「どこへ進み、どこで止まるかを教える」の言いかえとしてぴったり。
エ	a bed(ベッド)は意味が通らない。

🔑 この形式のコツ 空所のあとのダッシュ(―)やコンマは「言いかえ・説明」の合図。空所問題でダッシュを見たら、その説明を自分の言葉で短くまとめしてから選択肢を見る――それだけで正解が浮かぶ。

問2 正解 ア(15点) | 知らない単語は「段落のテーマ」から推測する

根拠 この文章全体が「目の見えない人を助けるブロック」の話。友人が sight を失いつつある→安全に歩けるように助けたい→目の見えない子どもの学校の近くに設置、という流れから、sight=視力。see(見る)と形が似ていることもヒント。

誤答の切り方

ア	「視力を失いつつある」→だから安全に歩けるように、と話が一直線につながる。
イ	「記憶を失う」でも文は作れるが、そのあとの「見えない人のためのブロック」につながらない。
ウ	「会話」を失う話は本文にない。
エ	「仕事」を失う話も本文にない。どちらも段落のテーマ(目・見えること)から外れる。

🔑 この形式のコツ 単語の推測は「その文だけ」でなく「段落のテーマ」から考えると強い。この文章は最初から最後まで「見えない人を助ける」話――テーマに合う意味を選べば、知らない単語もこわくない。

問3 正解 E(15点) | 「～の内容」問題は、前の段落の説明にもどる

根拠 their job=ブロックの仕事。第①段落で「線は進め・点は止まれを伝え、どこへ行きどこで止まるかを教える」と説明済み。第④段落は「その仕事は、上に物が置かれるとできなくなる」という話なので、仕事の中身は第①段落にもどって取る。

誤答の切り方

ア	自転車は「ブロックの仕事をじゃまするもの」として出てくる。仕事の中身ではない。
イ	掃除の話はこの文章にはない(No.2とまぜない！)。
ウ	音声はスマホアプリ(第⑤段落)の機能。ブロックそのものの仕事とは区別されている。
エ	第①段落の説明そのまま。「足の下地図」という比喻とも一致する。

🔑 この形式のコツ 「下線部の内容を説明せよ」型は、答えが下線部の近くにあるとは限らない。その言葉が最初に説明された場所にもどるのが正しい手順——説明文は「最初に定義→あとで応用」の順で書かれるからだ。

問4 正解 I(15点) | 挿入文の this が「指せる内容」のある場所を探す

根拠 挿入文の this rule(この決まり)が指せるのは、第③段落の an international rule about their shape(形についての国際的な決まり)だけ。(B)に置くと「国際ルールがある→そのおかげで外国でも同じように使える」と一直線につながる。

誤答の切り方

ア	(A)第②段落は誕生の話。「決まり」はまだ出てきていない。
イ	(B)international rule の直後——this rule の中身がそろっている唯一の場所。
ウ	(C)第④段落は「じゃまされると働けない」という問題の話。ルールの話は終わっている。
エ	(D)第⑤段落は新技術と結論。ここに置くと this rule の指す相手が遠すぎる。

🔑 この形式のコツ 挿入文に this / that + 名詞(this rule, that idea など)があるときは、「その名詞が直前に出てくる場所」を探す——挿入問題の7割はこの1手で決まる。

問5 正解 ア(20点) | 内容一致は選択肢を本文と「1対1で照合」する

根拠 第②段落 Tenji blocks were born in Japan. + In 1967, the world’s first tenji blocks were put on a street in Okayama. と一致。「日本生まれ・1967年・岡山・世界初」の全部がそう。

誤答の切り方

ア	第②段落の内容と完全に一致する。
イ	「日本で生まれた」と真逆。発明者・三宅精一の名前も本文にある。
ウ	第①段落と矛盾——線は「進め」、点が「止まれ」。2つの意味の入れかえは内容一致の定番のワナ。
エ	罰金の話は本文のどこにもない。現実にはありそうな話ほど「書いていない」を見落としやすい。

🔑 この形式のコツ 「AはX、BはY」と2つの意味が説明されたら、選択肢での入れかえを疑う(線と点、進めと止まれ)。それらしい常識で作った「書いていない」選択肢にも注意——照合のよりどころは常識ではなく本文。

問6 正解 ウ(20点) | タイトルは本文の比喩(たとえ)から作られることが多い

根拠 第①段落の「見えない人にとって、ブロックは足の下(地図)」という比喩が、②誕生 ③世界へ ④守るべきもの ⑤新しい力——全段落をおおう。最終文「次に見たとき、何も考えずに踏むことはないだろう」への流れとも一致。

誤答の切り方

ア	岡山は誕生の場所として出てくるだけ。歴史の説明が中心の文章ではない。
イ	自転車は「ブロックをじゃまする例」。乗り方の話はどこにもない。
ウ	全段落をおおう比喩＝正解。問1で選んだ言葉がタイトルにもなっている。
エ	アプリは第⑤段落の一部。傘ではなく骨の1本。

🔑 この形式のコツ 本文の中の比喩(～のようなもの、a map / small shops など)は、筆者の「一番言いたいことの圧縮」。タイトル問題で比喩の選択肢があったら最有力候補として本文全体と照合しよう。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	点字ブロックとは＝線は「進め」、点は「止まれ」。見えない人の「足の下(地図)」
②	誕生＝三宅精一が友人のために私財で開発、1967年岡山に世界初の設置
③	広がり＝駅→全国→世界へ。形の国際ルールで外国でも同じように使える
④	課題＝上に自転車や人がいると「地図」は「壁」になる
⑤	新技術(アプリ×ブロック)と結論＝「みんなのために設計された町」という大きな考え

もう一段のぼる 「日本発のユニバーサルデザイン」も入試頻出テーマ(点字ブロック・自動改札・絵文字ピクトグラム)。説明文総合はこれで3枚——次は資料読み取り(グラフ・表)タイプで「数字と英文を行き来する」練習へ。

先生向け・運用ノート チャレンジ欄・朝学習用(本文約400語。本文→設問18分＋自己採点で計30分)。福祉・共生の題材なので道徳や総合の時間の話題にも接続できる。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。